

# 福祉用具専門相談員研究大会開催へ

全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会は6月19日、第5回の福祉用具専門相談員研究大会を大阪府豊中市で開催する。節目の5回目は初の地方開催となる。テーマは「未来を支える福祉用具サービスの可能性」。大会を務める関西シルバーサービス協会の記虎孝年理事長は「多くの専門相談員が交流しながら研鑽する場になりたい」と話す。

材は非常に不足すると見込まれており、大阪府全体でも約2万5千人不足するといわれている。そうした状況で高齢者や障害者の自立支援を考えたときに、まず事故のない安心・安全・快適な生活を送るために福祉用具の導入が重要だ。そして、人材不足の中で住環境の改善や介護ロボット、福祉用具を使って生産性を向上させることが、福祉用具専門相談

「来年の2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、35年には85歳以上の高齢者が1千万人を超える。このため介護人



記虎大会長

## 記虎孝年大会長に聞く

# 福祉用具の可能性を考える

## 生産性向上や協働テーマに

員に期待される役割だと考える。

今年4月からは福祉用具に貸与・販売の選択制が導入された。利用者に説明を行い、医師の意見やサービス担当者会議での協議を踏まえて用具を提案する仕組みで、専門相談員には定期的なモニタリングも義務付けられた。ケアマネもその結果を確認し必要があればケアプランの変更をするなど、これまで以上に協働が求められる。

今後は、疾患を抱える後期高齢の利用者も増える。モニタリングはいつ行つのがいいか、福祉用具をレンタルするのか買

うのか。医師やリハ職ヘルパーなどと協議しながら科学的根拠をもって選定することが必要だ。より良い選定や利用につながる可能性があると思う。

福祉用具を選択・利用することで事故を防ぎ、生産性向上につながる評価システムの構築についてお話しした。

福祉用具専門相談員は、日々1人ひとりの利用者に向き合って支援しているはずだ

### 【第5回福祉用具専門相談員研究大会 概要】

- ▽2024年6月19日(水) 午前10時～午後5時40分
- ▽千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)
- ▽大会テーマ:「未来を支える福祉用具サービスの可能性～ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割～」
- ▽特別講演「福祉用具の利用支援、評価システムの構築」  
講師: 筒井孝子氏(兵庫県立大学大学院教授)
- ▽ランチョンセミナー
  - ①「介護保険における自立支援の考え方」講師: 成瀬文博氏(エブリハ代表取締役)
  - ②「新時代に求められる福祉用具専門相談員のモニタリング」講師: 長倉寿子氏(兵庫県立リハビリテーション中央病院教育・連携担当部長)
- ▽口述発表 ①地域・多職種連携・事業所の取組②福祉用具安全利用に向けた取組③科学的根拠に基づく未来に向けた福祉用具の取組——など
- ▽シンポジウム 発表演題のまとめと今後の展望